

浜松観光ボランティアガイドの会

「明るく 楽しく やらまいか」の精神で新たな歴史を

～年頭のあいさつ～

浜松観光ボランティアガイドの会 副会長 鈴木利雄 (中ブロック)



明けましておめでとうございます。皆様にはつつがなく新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。日頃はガイド活動をはじめ、会の各種行事や運営につきましてもご協力いただき、誠にありがとうございます。

昨年も一昨年に続き新型コロナウイルスのため、当会の各種行事やガイド活動の中止など大変な年でした。本年も変異したオミクロン株が広がる様子です。従来のコロナ対策を続け十分に注意して、無理をしないで活動してください。

さて、例年のことですが本年も観光ボランティアガイド新人養成講座を皮切りに各種行事及び事業が行われることと思います。皆様におかれましては行事・事業に積極的に参加され、研鑽を積みおもてなしの心と感謝の心をもって、お客様をお迎えください。とくに本年は来年(令和5年)の大河ドラマ「どうする家康」が始まりますので今秋頃からはお客様の来浜が増えることと思われます。又、大河ドラマ館から天守閣の見える浜松は他の2館(岡崎・静岡)より人気が出るのではと、浜松市文化財課の鈴木一有課長も二の丸発掘研修会の際に話されました。

又、今回のドラマは浜松時代の家康が描かれ、前回の大河ドラマ「おんな城主直虎」の時より大勢のお客様の来浜が予想されます。コロナとの共生がいられていますが健康にはご留意いただき、モットーであります「明るく 楽しく やらまいか」の精神で浜松観光ボランティアガイドの会の新たな歴史を刻んでまいりましょう。そして、バスでの研修会が今年は再開できることを願い年頭のあいさつとします。本年もどうぞよろしく願いいたします。

今年は柴又の寅さんのように明るく・楽しく・朗らかにやらまいか！

ジャンボ千支 カラカルト



- ・今年の「寅」で27作目。12月から2月まで展示。
- ・千支は2016年に「しまだ市民遺産」に認定された。
- ・父トラ(右)、母トラ(左)、子トラ(手前)の3頭家族。
- ・一番大きいサイズは高さ約3.5m、幅約4.5m。
- ・年末の風物詩で年賀状用に写真撮影に来る人が多い。
- ・年賀状を受け取った人が翌年の千支を撮影に来る。
- ・千支の展示が定着し、全国から見物、撮影に訪れる。
- ・展示場所は、島田市大代の島田市指定文化財「御林守河村家住宅」の駐車場。(新東名島田金谷ICから約10分、東名相良牧之原ICから約25分程度)

＜材料は間伐材、竹、わらを使用して組み立て＞

東ブロック 小池輝夫



浜松城天守門の門松飾り



初山宝林寺



三が日限定特別御朱印



蜂前神社

(西ブロック・飯尾さん提供)

会員の交流広場

平八稲荷伝説と北山稲荷と豊川稲荷



平八稲荷（北区都田町）

浜松市北区都田町の道路脇に小さな稲荷社があります。地元では「平八稲荷さま」と呼ばれています。この平八稲荷には不思議な話が伝わっています。

「昔、平八というおじいさんが馬渡橋を渡った所の高い榎の下に住んでいました。長雨が降り続いたある日、川の水位が上がってきたのを見て、危険を察知し高い榎に登って川の様子を見ていました。すると、上流から濁流が押し寄せてくるのが見えました。そこで、平八おじいさんは榎に登り大声で村人達に知らせました。初め村人達は信用しませんでしたが見聞が真剣な大声で叫ぶ平八を見て、村人達は山上に逃げたところ、やがて濁流が村を押し流してしまいました。しばらくして助かった村人達が平八おじいさんを探したが見つかりませんでした。見ると濁流

の上に稲穂をくわえた白い狐が渡って行くのが見えました。その後、村人達は平八おじいさんの住んでいた所に『平八稲荷』として祀りました。」(白きつね親水広場の説明看板より)

都田から姿を消した平八おじいさんは今度、豊川市西島稲荷に社守として現れます。西島稲荷は毎日参拝者で賑わっていました。ところが、平八おじいさんは豊川市妙巖寺(通称豊川稲荷)境内にある稲荷社に社守として迎えられました。そして、西島稲荷はいつとはなく寂れてしまいました。その後、平八おじいさんは豊川開山禅師が遷化(せんげ=死去)するとこつぜん姿を消してしまい、跡には平八おじいさんが使っていた釜だけが残され、この釜は現在豊川稲荷の本殿に安置されています。これが豊川稲荷に伝わる伝説です。

説明看板には平八稲荷は広沢・普濟寺の北山稲荷の元だとも書いてあります。普濟寺に電話して詳細を聞く事ができました。平八稲荷と北山稲荷は兄弟狐ということで、しかも豊川稲荷は普濟寺の末寺だとのこと。そして、家康が三方ヶ原の戦いの時に普濟寺(北山稲荷)に戦勝祈願をしたというのです。戦いの結果は皆の知るところです。その後、家康は江戸城に入城時に北山稲荷を分社して紅葉山に遷座。その後、渋谷宮益坂に遷座して「千代田稲荷」と称することに。

「平八稲荷」に関して、都田川の改修工事の折り稲荷の移転反対運動が起こったが、この時、寺も一緒に反対運動に参加してほしいという電話が反対住民から普濟寺にあったという逸話も聞くことができました。結局、都田川は河川改修され「平八稲荷」は現在地に移転、都田川はS字蛇行から直線の川になりました。

北ブロック 松本初義

会員の交流広場

この木なんの木 桜の幹に松育つ

この桜の木は浜松城本丸広場中央にあり、地上から1.5mほどの高さの幹の穴から、松の木が1mぐらい枝を伸ばしています。幹の一部が腐って穴が開き、松が好む弱酸性の腐葉土が溜まり、その上に松の種が落ち発芽したようです。

落葉樹が着生することはあるが、針葉樹の松が着生して育つのは珍しく、ほとんどは20センチから、30センチ位で枯れてしまいますが、どちらの木も元気に育っています。生育条件が整い、桜も松もお互いに養分を吸収して上手く共存しているのでしょう。共生社会の見本です。

数年前からこの珍しい木が話題になっています。

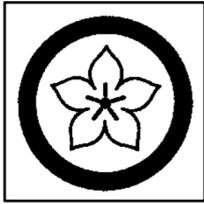
昨今の浜松城公園内の整備の際には、伐採することなく、出世城のシンボルツリーとして、桜、松、共に大きく育つのを日々楽しみに見守っていただきたいと思います。

中ブロック 藤田礼子



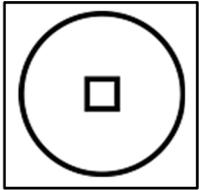
浜松城主の家紋 パート 4

太田桔梗紋 太田資宗(8代) 太田資次(9代)



桔梗は「更に吉」という文字で構成されていることから家紋として美濃土岐氏、明智光秀、加藤清正をはじめとして多く用いられている。太田氏の桔梗紋は太田桔梗紋ともいわれ、丸の中に桔梗をあしらった紋である。桔梗紋としては全部で約120種類ほどある。桔梗紋は花卉の単複で2つに分けられるが、普通は単弁で、複弁のものは二重桔梗、あるいは八重桔梗として知られている。

8代城主・太田資宗(すけむね)は太田道灌の家系の父太田重正、母都築秀綱の娘の間に生まれ、重正の跡目を継いだ時、所領わずか5百石であったが、家康、秀忠、家光にも仕えて目覚ましく出世し、2万石の三河西尾城主を経て、正保元年(1644年)に8代浜松城主となった。以来27年にわたり寛文11年(1671年)に次男の資次に家督を譲るまで治世をおこなった。9代城主・資次(すけつぐ)は寛永6年(1629年)に浜松城で誕生。父資宗から家督を譲り受けてから奏者番を経て延宝4年(1676年)に寺社奉行、6年には大阪城代、そして所領も摂津、河内、和泉の3国を治める大名になった。



青山銭紋 青山宗俊(10代) 青山忠雄(11代) 青山忠重(12代)

銭紋といえば真田氏の六文銭が有名だが、銭紋は信仰的な意味を持つ家紋と富を象徴する瑞祥的な意味の家紋がある。また、銭紋には永楽通宝、寛永通宝などの有文のものと同文銭、六文銭のように無文のものがある。青山銭は無文である。銭紋が史料に現れるのは「蒙古襲来絵巻」で信濃の滋野氏が六連銭の旗を翻している絵が最初で、後に三河の水野氏が永楽銭紋を用いている。この後、織田信長も旗紋として、功労のあった諸将に下賜している。

10代城主・青山宗俊(むねとし)は父青山忠俊の失脚により、不遇な時があったが家光のもとに出仕してから書院番頭、大番頭と出世し、慶安元年(1648年)には信濃小諸4万2千石の大名として名門青山氏の復興を果たした。寛文2年(1662年)からは大阪城代として約16年務めた後、延宝6年(1678年)に浜松に転封となりわずか2年ではあったが、10代浜松城主を務めた。嫡男忠雄(ただお)は父宗俊から家督を継いで35歳で没するまでの6年間11代浜松城主となった。その後、異母弟の忠重(ただしげ)が遺領を継いで元禄15年(1702年)に丹波亀山に転封となるまでの17年間12代浜松城主を務めた。

参考文献／「浜松城と歴代城主」「日本の家紋事典」「家紋大全」「家紋のいろは」
研修部 谷 晃 (西ブロック)

12月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。またこの3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター(浜松駅構内)」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《浜松城》

10	金	浜松市立大瀬小学校	60名
		クリスタルクルーザー「董」	12名
14	火	磐田市立青城小学校	80名
		クリスタルクルーザー「董」	16名
22	水	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校	65名

《犀ヶ崖資料館》

10	金	浜松市立大瀬小学校	60名
12	日	新津地区体育振興会	47名
14	火	磐田市立青城小学校	80名

《浜松まつり会館》

10	金	浜松市立新津小学校	125名
----	---	-----------	------

はままつ案内人会報 234号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会
〒430-0946 浜松市中区元城町100-2 (浜松城内)
TEL & FAX 053-456-1303
メールアドレス mail@hama-svg.jp
ホームページ http://www.hama-svg.jp/

はままつ案内人

検索

